

なぜPFI導入にこだわるのか

民間手法

市長はまともな説明できず

福岡市は9月議会に、人工島の「新こども病院」の建設と管理運営に民間手法を持ち込むPFI方式を導入するための議案を提出しました。他都市でPFI病院の失敗が相次ぐなどしたため市が再検討を余儀なくされていました。

「コスト削減」の口実崩れた

昨年12月に公表された「新病院基本構想」では、医療関連業務のうち給食やベッド管理、医療事務など10業務と施設建設・管理の7業務をすべて一括して民間会社に委託する計画でしたが、今回、医療関連9業務を除外しました。

今回変更で「コスト削減」の効果は85億円から17億円に大幅に減りました。

民間手法で、医療関連9業務を除外しました。病院建設の資金調達についても「民間1割、市9割」へと変更。当初計画では「民間資金5割、市の借金5割」、6月には「すべて市の借金」と説明していました。

本会議質疑で日本共産党のひえじま俊和市議は、PFI導入の理由が崩れたことを指摘し、「PFIに固執する必要がどこにあるのか」と追及しました。これに対し、保健福祉局長は「リスクの高い部分を除外した。民間資金を最低活用することにした」などとほぐらかし、「メリットがある」と強弁しました。

独法化とPFIは行政の責任放棄 これでは子どもの命は守れない

さらに、ひえじま市議は「地方独立行政法人化によって市の責任があいまいになり、子

どもの命よりも病院経営が優先されるのではないか。新病院計画は白紙撤回すべきだ」と迫りました。

吉田市長は「より安全で確実な手法で新病院を整備したい」などと述べましたが、PFI導入の疑問に何一つ答えることができませんでした。それでも強行しようとする態度はあまりにも異常です。



ひえじま俊和市議

PFIとは 公共施設の建設・資金調達・管理運営を、大手ゼネコンなど民間企業に一括委託する仕組み。発注した自治体は数十年にわたって毎年一定額を支払います。公立病院でも全国4カ所で導入されましたが、近江八幡市立医療センターでは今年4月に解約、高知県医療センターでも契約解除が決定されるなど破たんが相次いでいます。